

安井 瞭¹, 畠中 幸², 土屋 亨² : 伊勢湾沿岸地域において同時期に確認された複数のグンバイヒルガオ実生個体

Ryo YASUI¹, Yuki HATANAKA², Tohru TSUCHIYA³ : Multiple *Ipomoea pes-caprae* seedlings found at the same time in the coastal area of Ise Bay.

グンバイヒルガオ (*Ipomoea pes-caprae*) はヒルガオ科サツマイモ属のつる性植物であり, 世界中の熱帯地域~亜熱帯地域の海岸に広く分布する (大川・林 2016). 本種は海流により種子散布を行う汎熱帯海流散布植物で, 本州の太平洋沿岸にて度々種子が漂着, 発芽することが知られている (中西 2008, 2011). 2020年8月12日から11月28日に伊勢湾内・三重県鈴鹿市と津市に位置する4カ所の海岸にて高潮線帯から植生帯に至る砂浜上で複数個体のグンバイヒルガオが確認された. 伊勢湾内におけるグンバイヒルガオの漂着, 発芽の事例はこれまで報告されておらず, またこのように本州において同一湾内に位置する複数の海岸で同時期にグンバイヒルガオが確認された事例は極めて稀なケースであるため報告する.

調査記録

調査は, 三重県鈴鹿市に位置する磯山海岸 (34°48'49" N136°34'42"E), 同県津市に位置する芦原海岸 (34°47'21" N136°33'19"E), 阿漕浦海岸 (34°42'26" N136°31'21"E), 御殿場海岸 (34°41'39" N136°31'15") の4カ所で行った (図1). いずれの海岸も伊勢湾の湾口より約40kmの距離にあり, 砂質海岸である. これらの調査地のうち御殿場海岸において, 2020年8月12日に最初のグンバイヒルガオの2個体の確認したため域内を調査し, 磯山海岸では2020年11月28日に, 芦原海岸では2020年10月4日, 11月14, 21日に, その他の海岸では2020年10月4日に現地での生育状況を確認した.

結果

計4カ所の調査地 (図1) にて, 8個体のグンバイヒルガオを確認した. 磯山海岸では約60cmまで成長した1個体, 芦原海岸では約40cmまで成長した1個体 (図2) と3個体実生株 (図3) の計4個体, 阿漕浦海岸では1m以上の大きさまで成長している1個体, 御殿場海岸では約1mの大きさの個体 (図4) 2個体を, それぞれ確認した. 種の同定は大川・林 (2016) を参考に行った. 砂浜上に匍匐するように長く伸びたつるの茎, 軍配形で先がハート型に凹入する葉とその色合いから, いずれの個体もグンバイヒルガオであると判断した. なお, いずれの個体とも2020~2021年の冬季における地上部の枯死を確認した.

考察

グンバイヒルガオは本州においては神奈川県三浦市 (鐵 2019) などの太平洋沿岸で発芽事例や実生個体が確認されて



図1 本研究における調査地



図2 芦原海岸のグンバイヒルガオ



図3 グンバイヒルガオの実生

いるものの、伊勢湾沿岸地域における発芽個体や実生個体の報告は行われておらず、本研究が伊勢湾内におけるグンバイヒルガオの初報告となった。

環境省地球環境局（2008）によるシミュレーション結果によると大潮期の流入最強時には太平洋より伊勢湾内へ非常に速度の速い潮流が生じることが示唆されている。この潮流は調査地域の三重県津市沿岸部まで達しており、グンバイヒルガオの種子はこの潮流により伊勢湾内にもたらされた可能性がある。また、四日市港湾組合（2021）によると伊勢湾内には名古屋港をはじめとした国際港湾が点在し、特に四日市港は台北・マニラ・ダナン・ジャカルタなど熱帯地域との船舶の往来が盛んである。これらの船舶は熱帯地域の洋上で積載したバラスト水を伊勢湾内で排出している。三河湾内に位置する豊橋港周辺ではバラスト水によってもたらされたと考えられる植物（ヒガタアシ：*Spartina alterniflora*）が定着して問題になっている（愛知県環境部自然環境課 2012）。グンバイヒルガオも同様にバラスト水によってもたらされた可能性があり、今後は伊勢湾内における熱帯起源植物の移動経路についても調査・検討する必要がある。

グンバイヒルガオの本来の分布地の北限は大分県の猿島海岸とされていたが、2018年には大阪府南部に位置する阪南町鳥取において定着していることが確認されており、徐々にその分布を広げている（横川・自然と本の会 2018）。本調査地においてもグンバイヒルガオが定着する可能性は高く、今後とも継続的な調査を行う予定である。



図4 御殿場海岸のグンバイヒルガオ

引用文献

- 大川智史・林 将之. 2016. 琉球列島の植物図鑑奄美・沖縄の～八重山の亜熱帯植物図鑑. 487pp. 文一総合出版. 東京.
- 中西弘樹. 2008. 海から来た植物—黒潮が運んだ花たち—. 319pp. 八坂書房. 東京.
- 中西弘樹. 2011. グンバイヒルガオの海流散布の現状とその分布拡大. 植物地理・分類研究58: 89-95.
- 鐵 慎太郎. 2019. 三浦市南部における3種の熱帯・亜熱帯性海岸植物の実生の生育状況. 神奈川自然誌資料. 40: 19-23.
- 環境省地球環境局. 2008. 漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査総括検討会報告書. 814pp. 環境省. 東京
- 四日市港湾組合. 2021. 四日市港コンテナ定期航路網. 2 pp. 四日市港湾組合. 三重.
- 愛知県環境部自然環境課. 2012. STOP! 移入種守ろう! あいちの生態系～愛知県移入種対策ハンドブック～. 76pp. 愛知県. 愛知.
- 横川昌史・自然と本の会. 2018. 大阪府新産のグンバイヒルガオ（ヒルガオ科）と生育状況. 大阪市立自然史博物館研究報告. 72: 43-45.

(Received June 28, 2021; accepted Oct. 12, 2021)

¹土浦日本大学高等学校 〒300-0826 茨城県土浦市小松ヶ丘町4-46

¹Tsuchiura Nihon University High School, 4-46 Komatsugaoka, Tsuchiura, Ibaraki, 300-0826, Japan

²三重大学 先端科学研究支援センター 植物機能ゲノミクス部門 〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

²Plant Functional Genomics, Life Science Research Center, Mie University, 1577 Kurima-Machiya, Tsu, Mie, 514-8507, Japan